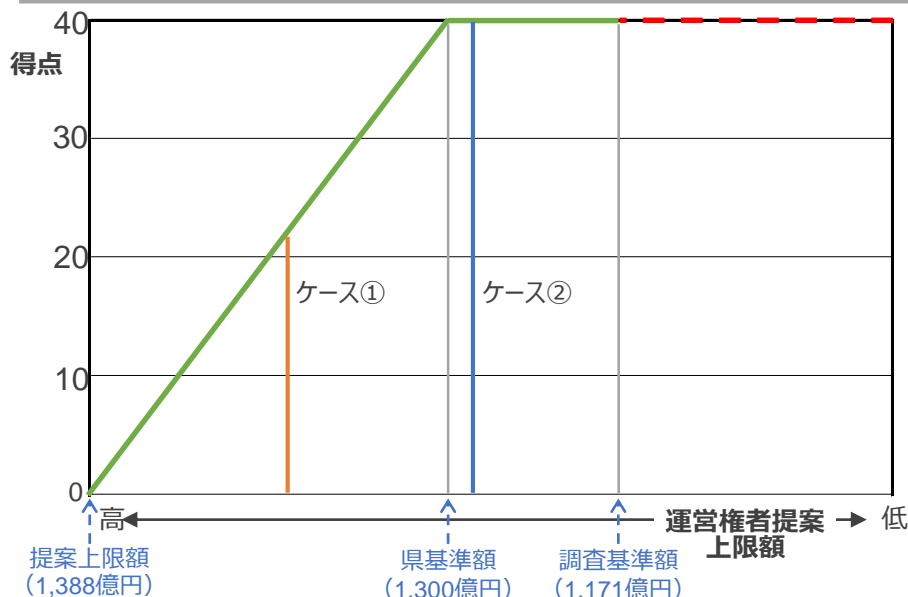


令和元年度第5回
PFI検討委員会

【厳秘】
会議後回収資料

令和2年2月18日

運営権者提案上限額についての得点化の方法



- 左図のとおり、県基準額を満点とし、提案上限額を0点とする一次式で評価。
- 調査基準額未満の提案額とした応募者に対して、調査を実施する。調査としては、提案内容から運営権者提案上限額の算定根拠を確認するほか、必要に応じて追加資料（内訳等）の提出及びヒアリングを実施する。
- 競争性を確保する観点から、県が設定する運営権者提案上限額の基準額は公表しない。

1点当たり：2.20億円 10億円当たり：4.55点

＜運営権者提案上限額の得点化の例＞

ケース①：運営権者提案上限額の提案額：1,340億円の場合

$$40点 \times (1,388億円 - 1,340億円) / (1,388億円 - 1,300億円) = 21.82点$$

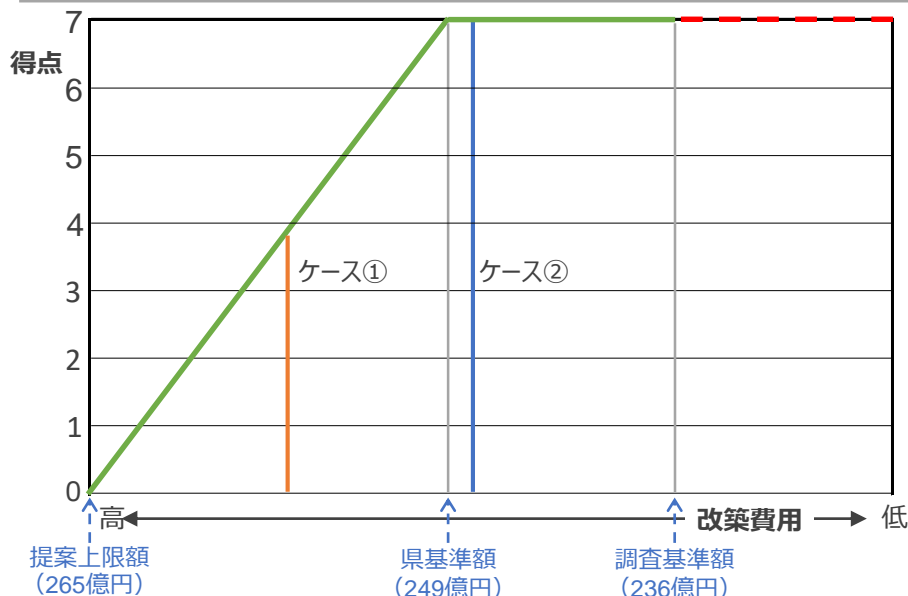
ケース②：運営権者提案上限額の提案額：1,280億円の場合

$$40点 \times (1,388億円 - 1,280億円) / (1,388億円 - 1,300億円) = 49.09点 \rightarrow \text{県基準額を下回る提案額のため40点}$$

(単位：億円)	現行体制モデル 総事業費 a	コスト削減率 b		みやぎ型モデル総事業費 a×(1-b)		下水改築費 (実費精算) ②	試算結果 ①-②	応募者に求める コスト削減額
		導入可能性調査における 聞き取り結果		うち県	うち運営権者 ①			
提案上限額	3,314	7%	期待コスト削減率の最小値	3,067	1,414	1,653	1,388	▲197
県基準額		10%	期待コスト削減率の中間値	2,979	1,414	1,565	1,300	▲284
調査基準額		14%	期待コスト削減率の最大値	2,850	1,414	1,436	1,171	▲413

※端数調整により表内の計算が一致しない場合がある。

下水道事業に係る改築費用についての得点化の方法



- 流域下水道事業に係る改築費用についても、運営権者提案上限額と同様の考え方により得点化を行う。
- 過年度の導入可能性調査において実施したコスト削減率に関する聞き取り結果を踏まえ、それぞれの期待削減率を提案上限額：10%、県基準額：15%、調査基準額：20%として設定する。

1点当たり：2.29億円 10億円当たり：4.38点

＜改築費用の得点化の例＞

ケース①：改築費用の提案額：257億円の場合

$$7点 \times (265億円 - 257億円) / (265億円 - 249億円) = 3.50点$$

ケース②：改築費用の提案額：240億円の場合

$$7点 \times (265億円 - 240億円) / (265億円 - 249億円) = 10.94点 \rightarrow \text{県基準額を下回る提案額のため7点}$$

(単位：億円)	改築費用			コスト削減率 c	コスト削減後 改築費用 d=b x (1-c)	合計 a+d
	合計	うち県策定分 a (～R4)	うち運営権者策定分 b (R5～)			
提案上限額	292	17	275	10%	248	265
県基準額				15%	232	249
調査基準額				20%	220	236

※端数調整により表内の計算が一致しない場合がある。

点数評価のシミュレーション

*1便宜的に運営権者提案額の1点あたり金額で算出している。

ケース別の「定性評価」の得点			得点差と 「定量評価」での金額差*1
ケース①	全て「標準」	91.8点	15.3点⇒33.7億円
ケース②	「標準」1/2 「良」1/2	107.1点	15.3点⇒33.7億円
ケース③	全て「良」	122.4点	10.2点⇒22.4億円
ケース④	「良」2/3 「優」1/3	132.6点	20.4点⇒44.9億円
ケース⑤	全て「優」	153.0点	

61.2点*2
↓
134.6億円

運営権者提案額
1点あたり：2.20億円 10億円あたり：4.55点

下水道事業に係る改築費用
1点あたり：2.29億円 10億円あたり：4.38点

*2「定量評価」の満点は47点（「運営権者提案額」（40点），「下水道事業に係る改築費用」（7点））